

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2693000081 | | |
| 法人名 | 三菱電機ライフサービス株式会社 京都支店 | | |
| 事業所名 | 長岡京ケアハートガーデン グーループホーム今里(1Fなでこ) | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年3月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年7月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2693000081-00&PrefCd=26&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル |
| 訪問調査日 | 平成26年4月15日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| ①連携のとれた支援展開 【家族・医療関係者・近隣住人・職員間等】 |
| ②年間を通じ趣向を凝らしたイベントの実施に努めホームで暮らす入居者・関わる家族・職員共に活気ある日常生活を目指している点 |
| ③職員育成に向け研修内容の充実、専門職による勉強会の実施に加え、近隣グループホームへの見学等の機会を設けるなど積極的に取り組んでいる |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| 当該事業所は利用者のみならず家族との関わりを大切にしています。家族カンファレンスの機会を持ち家族の思いや要望を聞くよう努め、互いに協力しながら利用者の暮らしを支援しています。利用者の日々の暮らしぶりや行事、外出時の様子を載せるアルバム作りは家族から好評を得ています。また、地域との連携や関係作りにも取り組み、盆踊りや運動会などの地域行事への参加やボランティアの訪問など地域との良好な関係が築かれています。職員間の関係は良好で常に話し合いながらケアにおける方向性を定め、実践に向けて取り組む中で管理者は職員への気配り、業務や書類整備等にも注意を払い、働きやすい職場環境づくりに努めています。また、研修計画に基づき専門分野の講師による多くの研修や事業所での勉強会を開催し、職員のスキルアップややる気に繋げています。 |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,24) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 良質なケアは良質なケアスタッフを育成することからであるとの観点より何事も皆で検討し取り組み、研修や勉強会を通じて、スキルアップに繋がっている。職員の処遇改善や福利厚生への改善にも努め風通しの良い職場作りを目指している。 | 開設時に作成された理念を職員間で振り返ると共に見直し、現状に即した事業所独自の理念を掲げています。新入職時には理念について説明を行い、理念が浸透するよう努めています。職員は理念の意味合いを理解し、日々理念を意識しながら実践に向けて取り組んでいます。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近辺の散策は基より、近所のボランティアさんの定期訪問や地元の盆踊りへの参加等を通じて積極的に交流の機会を持つように努めている。 | 地域の子どもたちが遊びに来たり、盆踊りや運動会などの地域行事に参加し交流を図っています。紙芝居や楽器の演奏、フラダンス等のボランティアの訪問や見学、相談等を随時受け積極的に地域との関わりが深まるよう努めています。日々の散歩等で出合った方と挨拶を交わすなど近隣の方との交流も深めています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 家族会、納涼祭等には地域の様々な同好会の方々に参加を依頼したり、気軽に見学や相談等も受けるなど、地域住民の方々と理解し合えるよう努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議開催時には、当ホームにおける日常をより深く理解していただくために、ホーム便り等を資料として利用している。年に一回は家族的な運営推進会議を開催、各人に意見を求め日常のサービスに活用している | 会議は民生委員、市職員、家族、医療従事者等の参加を得て隔月に開催しています。事業所からの状況報告のあと参加者からの意見も多く有意義な会議となっています。会議終了後に家族会を行う時は多くの家族の参加を得ています。地域行事や外出先等の情報をもらい利用者に参加したり外出行事に組み入れるなど、意見や提案をサービスに反映するよう努めています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 定期的に開催されている市町村主催の連絡会に参加している。運営推進会議、家族会に高齢介護課の担当者の方も参加有 | 運営推進会議へ市職員の参加がありホームの実情等、理解を得ています。相談事などある時は電話や直接窓口に向くこともあります。市職員の参加するグループホーム連絡会や市から案内の届く研修会に参加し、意見交換等を行い交流を図っています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本的に施錠は行っていないため常に自由に出入りできる状態にある。身体拘束は禁止事項である事実を職員全員が周知しているが、研修は毎年の必須研修であると認識し実施している。 | 職員は外部研修に参加し会議等で伝達講習を行ったり、事業所で勉強会を行うなど拘束についての理解を深めています。玄関は施錠せず自由に出入りできるようにしており、出たい様子が見られた時は一緒に出かけたり、ホーム内で興味をそることに目を向けてもらうなど閉塞感のないケアに心がけています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待行為も上記の身体拘束と等しく禁止項目であることは皆、周知しているが、より理解を深めるべく必須項目として毎年研修を行っている。 | | |

長岡京ケアハートガーデン グーループホーム今里(1Fなでしこ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在すでに成年後見制度を利用されている入居者がおられ、その必要性についても理解している者も少なくはない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前の事前見学、説明には充分時間をかけ納得いくまで行っている。改定に関して説明会を行ったり、書面を送付するなどして理解を得た後の契約の締結を、常としている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 定期的な家族カンファレンスとは別に、必要に応じた家族・関係者参加のカンファレンスを開催している。面会時においても積極的にコミュニケーションの機会を持ちアンケート等にも利用して家族様の意見の汲み上げに尽力し、個人プランや運営へ反映させるよう努めている。 | 家族会や個々の家族カンファレンス、面会時等に意見や要望を聞いています。特に個別の家族カンファレンスでは多くの意見が出されており、出てきた意見については全家族の意見を聞くためアンケートをとり、結果を検討し対応するよう努めています。外出の希望等に関する意見を受け全体で取り組むなどサービスの向上に反映させています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月定期的にユニット会議・UL会議を開催している。半期に一度は職場懇談会等を通じて職員の意見や提案を検討する機会を設けている。更に年に一度は上長との個人ヒアリングも設定し各職員の思考についても事業運営に取り入れている。 | 月1回のユニット会議やリーダー会議で意見や要望を聞いています。ユニット会議での意見を事業所全体で話し合い、内容によっては会社との懇談会に挙げ決定することもあります。日々の業務や休憩中にも多くの意見が出ており、職員シフトの統一について話し合うなど改善に向けて取り組んでいます。年1回の職員懇談会や上長との個別ヒアリングは要望や相談等ができる機会となっています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個人別評価制と設定している。各職員それぞれの長所を生かせる担当決めによりやりがいを持てるよう配慮し、個人ヒアリングにおいては各人の意見の傾聴や時にはアドバイザーとしてより飛躍できるようサポートしている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年間を通じての計画的内部研修に加え、本社主催の研修(センター方式)や外部研修への積極的な参加も実施している。尚、内部研修においては専門職の方による研修も25年度より開始 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同経営下GH職員との研修は基より他事業所との交流に努め、互いのホーム見学会やイベントへの参加等を通じて意識向上へ繋げていきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の本人面談の際、十分にコミュニケーションの機会を設け、必ずホーム見学も実施していただいている。(体験入居も実施中) | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居の申し込み時におけるヒアリングに重きを置き現状把握に努めている。場合によってはかかりつけ医や支援専門員、包括支援センター職員の方々にも協力を依頼している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人様に必要なサービスを担当の支援専門、かかりつけ医とも検討し「その時」にふさわしい支援展開を導きだせるよう努めている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居されるにあたり、事前に基本情報シートの記入を依頼している。以前の生活歴や趣味・嗜好等より多くの情報を収集し、職員は基より、他の入居者の方々との馴染みの関係づくりに役立っている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居説明においての理解を求め、入居後はホーム便りの発行やアンケートにて意思確認を怠らず、定期的に家族カンファレンスを開催することで連携した支援展開を図っている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 御家族様は基より、親戚や友人の方々気軽に訪問していただけるよう配慮しています。家族の協力もあり、外出や外泊時、自宅で過ごされるなどしてこれまでの馴染みの関係の継続にも積極的に取り組んでいただけるよう推進している。 | 学校の先生や教え子など知人の来訪があり、お茶を出してお部屋でゆっくりと話が出来るよう配慮したり、以前利用されていたスーパーへの買い物や天満宮へのお参り等、今までの関係が継続出来るよう支援しています。また馴染みの美容室や墓参りなどへ出かけるための日程調整や身支度などの支援を行い、付き添いは家族の協力を得ています。年賀状の投函等の支援も行い馴染みの関係が継続できるよう努めています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 何事も平等性を重んじ、各人それぞれがホーム間での良好な人間関係を構築し、日常生活においても協力し支え合えるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了においてもその後の様子についての相談に応じ、必要に応じては関係者の面談も受けている。親戚関係の入居者もある | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居前にアセスメントシートの記入を依頼しこれまでの生活歴の理解に努めている。入居後はホームでの生活より知り得た情報を各職員が追記しながら個人プランに繋げていけるよう随時ミニカンファレンスや家族カンファレンス等を開催している。 | 入居前に家族の協力を得て利用者の生活歴や身体状況、意向等を書いてもらっています。入居後、日々の関わりの中で得た利用者の言葉や様子、表情等から知り得たことを介護記録に記載し職員間で共有し、得た情報を基にカンファレンスで本人本位に検討しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 基本情報シートよりの情報や家族よりのヒアリング、かかりつけ医の情報提供表を参考により多くの情報集に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 勤務する職員各人が、それぞれに24時間生活変化シートの記入や療養手帳への記録等を日々実施することにより常に現状の把握に活かしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ミニカンファ、担当者会議、家族カンファレンスよりの課題抽出より介護計画を立て、モニタリングシート(兼カンファレンス準備シート)を作成し次回のケアプランに繋げている。 | 利用者や家族の意向、アセスメントを基に介護計画を作成しています。一定期間計画通りに実施し、本人の意向に沿っているかなどミニカンファレンスで話し合うと共に評価を行い実際の介護計画に繋げています。6ヶ月に1度見直しを行い、見直し前にはモニタリングを実施し、家族や利用者、必要に応じて医師、看護師の参加や意見を集約しカンファレンスを行い現状に即した介護計画となるよう努めています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 朝礼時での申し送り、申し送り表、24時間シート等を通じ職員間における情報の共有に努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 昨年度より月1の訪問理美容導入、月2の訪問歯科診療を開始した。最近においては、通院や外出時における訪問介護の利用(有償)を希望される家族様多く近隣の事業所を紹介している。アンケート等で家族間のニーズを把握し柔軟に対応していくよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 年2回は消防暑立会いのもと訓練を実施 近隣の公園で行われる自治会主催の盆踊りに参加 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族の意向によりかかりつけ医の往診、通院と自由に選択していただいている。ケースによっては、かかりつけ医を専門別に複数設定している方も有り。ほとんどの方は在宅療養安心システムに登録されている。昨年度より訪問歯科診療も導入済み | 利用者、家族の希望に応じてかかりつけ医を選択してもらっています。受診は基本的に家族が同行していますが、緊急時等必要に応じて職員が同行することもあります。在宅療養手帳にて連携をとり情報を共有しています。2週間に1度の往診を受けている方や必要に応じて随時受けている方もあります。緊急時は救急搬送することもあります。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 非常勤NSを設定している。24時間ONコールOKである。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院に至ってはかかりつけ医による医療機関との連携により迅速な対応が図れていると思われる。入院中は時折入院先へ出向き、相談員や主治医と現在の状況の確認や今後の相談を積極的に行うように心掛けている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用契約書に添付してある、「重度化した場合の対応に関わる指針」に基づき契約前に将来的に起こるかもしれない事態を想定した説明も行い、方向性の同一化に努めている。 | 重度化した場合の指針について入居前に説明を行っています。重度化した場合は医師や家族と話し合い、医療系の施設へ転入される方もあります。医療行為が発生した場合は職員による支援は難しく、家族と話し合いながら方針を共有し訪問看護を利用しながらホームとしてできる限りの支援を行っています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時対応マニュアルに伴う研修の実施。各ユニットに緊急連絡網を備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力も得て避難訓練を定期的実施している。訓練を行う際、事前に近隣の方々へ連絡している。開設前の内覧会等でご近所の方々にも見学をお願いし、緊急時における協力も依頼している。 | 年2回消防署立ち合いの下、昼夜想定での訓練と地震による火災を想定し初期消火や避難誘導などの訓練を行っています。地域には緊急時における協力をお願いしており、訓練については運営推進会議で報告をしたり近隣には事前にチラシを配り案内をしています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 基本情報から各入居者様の情報を把握することに努めている。プライバシーに関する情報は、個人の居室や他者から離れて耳打ちする等対応している。毎年、個人情報保護法、秘密保持の徹底については研修を行い、職員の周知徹底に努めている。 | 接遇マナーについての研修に参加したり、ユニット会議の中でも話しをするなど全職員に周知するよう努めています。本人の自尊心を傷つけないような声掛けをするなど、常に基本的なケアを意識しながら支援しています。個人情報に関する事は特に注意を払うよう努めています。不適切な言動が見られた場合は管理者やリーダーが注意をしたり会議の中で話し合うなどプライバシーを損ねないケアを心がけています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者様に寄り添って思いを汲み取り、自己決定や自立支援を行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者様自身のペースにて過ごして頂いている。レクレーションをする際、個々の思いを大切にして実施している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 月一回の訪問理美容では、カット・顔剃りの支援をしている。入居者様と一緒に服を選び、最終的に本人様に決めて頂く。個々の必要に応じて洗顔、化粧水等購入している。今後、化粧療法の導入も予定している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者様や家族様から教えて頂いた、食の好みやアレルギー等を把握し、安心して食事を楽しんでもらえるよう工夫している。毎週日、火曜日は手作りおやつを提供している。イベント時には、そのイベントに応じた献立を立て、バイキングやお弁当も取り入れている。また、外出を兼ねて外食を実施している。 | 献立は季節や栄養のバランス、利用者の好みなどに配慮しながら管理者が立てています。会社や生協から食材が届き、足りないものは購入しています。野菜の下処理や台拭き、下膳などできることに携わってもらっています。外食や流し素麺、バイキングなど様々な食事形態にも配慮し食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。アレルギーや嫌いな物がある場合は代替え食を提供しています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 各入居者様の食事量、排尿、排便等を記録している。水分制限がある方は、毎回提供した水分量を記録し、一日の水分摂取量を算出している。夜間は、配茶を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアをして頂き、入居者様の状態に応じて支援している。夜間は義歯を預かり、定期的に洗浄剤にて清潔を図っている。歯や義歯にトラブルがあった場合は、訪問歯科(二週間に一回)と連携を取り、治療を実施している。訪問歯科医による口腔ケア及び嚥下等の研修を行っており、職員の口腔ケアに関する研鑽も努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄の回数を記入して、パターンを把握することによって、日常の体調管理の目安としている。入居者様の状態に応じた介助を心掛けている。 | トイレでの排泄を基本とし排泄記録を基にパターンを把握し、個々に合わせた声かけやトイレ誘導を行っています。体調によって夜間のみポータブルで対応をすることもあります。オムツを使用されていた方が紙パンツに移行するなど自立に向けた支援を行っています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 体操や散歩等の運動、定期的な水分提供をしている。排便の回数を記入し、最終排便を確認、把握に努めている。療養手帳に記入して、かかりつけ医との連携を図っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 体調に留意しつつ、週三回の入浴を心掛けている。入浴剤を使用することにより、匂い、色を楽しみながら入浴されている。また、入浴を好まない方であっても、気分が変わるきっかけとなり、入浴を楽しんで頂いている。 | 午前中から夕方まで入浴の準備を行い、少なくとも週に3回は入浴できるよう支援しています。入浴剤を利用し色や香りを楽しみながらゆっくり入ってもらえるよう配慮しています。拒否のある場合は時間をおいて声を掛けたり、タイミングを見計らって入ってもらうなど無理強いせず対応し、同性介助にも配慮しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご自身のペースで日常を過ごして頂いている。入居者様の体調に応じ、長時間の休息で夜間の睡眠の妨げにならないよう、本人様の意思を確認して日中活動を支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬リストがあり、変更等あれば申し送りノートや口頭にて職員間で周知徹底している。入居者様の状態に応じて服薬の支援をしている。排便に関しては、かかりつけ医と連携し、最終排便の確認やコントロールして頂いている。月二回看護師に体調管理や爪切り、耳掃除等をお願いしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 基本情報を基に、日々の生活から見えてくる入居者様の様子を観察して、本人様の意思、家族様の意向を汲み、その方に合った役割等を見出し支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 定期的な散歩の機会を図り、外出の頻度を把握するため外出リストを作成している。季節に応じた行事や遠出を企画して、事前に下見を行う等模索している。外レクリエーションは、入居者様に季節や日常とは異なる時を楽しんで頂けるように取り組んでいる。 | 外出支援を大切にしており、日々の散歩や買い物以外にも花見や紅葉狩り、初詣など季節毎の外出や水族館、近くの天満宮など外出の機会が多くあります。家族と共にしかける食事は楽しみなものとなっています。地域の行事では席の用意や椅子の確保など地域の方の協力を得ることもあります。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 当ホームにおいては金銭の所持をご遠慮いただいております。外出・買い物等の際にかかる費用につきましても本人様が直接支払いをされることはありません。(立替制のため) | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 状況によって本人様に代わり家族様に連絡をする場合もある。携帯電話の持ち込みも可能である。手紙や短歌の投稿等、本人様の楽しみごと等も支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者様の状態に応じて、配置等の変更を行い、居心地良いように工夫している。入居者様と一緒にその月の花や動植物のディスプレイを作成する等、室内においても季節が感じられるように努めている。 | リビングは明るく観葉植物が随所に置かれ、桜やチューリップ、つくし、鯉のぼりなど季節毎の利用者の作品が飾られています。温度計や加湿器を置き快適に過ごせるよう配慮し、掃除は徹底して行き清潔保持にも努めています。ソファなどの配置についても利用者の動線を考慮し、車いすを使用している方にも安心して過ごしてもらえるよう工夫しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | お食事の席は、気分転換も兼ねて定期的に席替えをしている。入居者様は、気の合った方とTVを見たり、談笑されたりと各々のペースで過ごして頂いている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居にあたり、家具、家電品等全てご自宅より持参して頂いている。なじみのある物を使用することにより、以前の生活に近いような環境作りを配慮している。模様替えと衣替え等については、家族様にご協力を頂いている。 | 入居の際は使いやすい物、親しみやすい物など持って来てもらうよう伝え、使用されていた机や椅子、タンス、テレビ、ベッド等を持ち込まれています。家族と相談しながら暮らしやすいよう配置しています。家族の写真を飾ったり、ランプや編み物、書道道具など趣味の物も持ち込まれ、その人らしく落ち着いて過ごせるよう配慮しています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | テーブルに座席札を置くことによって、自席の理解を促している。トイレの使用状況が分かる札を作成することにより、互いに活用方法について話し合う姿も見受けられ、自立支援につながっているようである。 | | |